

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立 中学校 第3学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・文章の展開に即して内容を捉える力。	・ノート指導、作文指導等、「書く」機会を意図的に増やすよう心掛ける。 ・基礎的な知識である文法や漢字の学習を積み重ねるとともに読書に親しみ、語彙力をつけていく。	成果・具体策については達成できなかった。 課題・低位の学力の生徒に対して最低限の基礎知識をつける。
社会	・自ら進んで考えようとする姿勢の育成 ・思考・表現力及び資料活用能力の向上	・学習内容が、身近な日常生活との関連の中で考察できるような教材、課題の提示をする。 ・多様な資料等を活用し、多角的な見方を促すとともに、小集団による活動の場を増やす。	【成果】 ・多様な資料を活用して、資料活用 の技能を向上させることができた。 【課題】 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることに課題がある。
数学	・基礎基本の定着 ・家庭学習の習慣化 ・数学的な見方・考え方の問題を解く力の向上	・基本的な計算問題等に数多く取り組ませる。 ・家庭で取り組める課題を適度に与える。 ・話し合い活動に繋がるような課題を設定し、考えを互いに伝え、共有し、発表する場をつくる。	・定期考査の際に、予告問題を提示し、苦手な生徒もテスト勉強に取り組み、基礎基本を身に付けていることに繋がった。 ・授業後にワークを使って復習するように課題を出し、少しずつ家庭学習も習慣化されてきている生徒もいる。 ・話し合い活動の場面をより多く作り出せるよう授業を工夫する。
理科	・自然事象に対してや、実験観察等で得られた結果に対しての、科学的なものの見方や考え方、考察する力。 ・定量的なものの考え方。また、化学式や化学反応式についての正しい知識理解と、その活用の仕方。	・実験観察時のワークシートやタブレットの活用などで、その現象のポイントを明確にし、理論立てた考察がしやすいようにする。 ・授業の中で既習事項の振り返りや問題練習などを多く取り入れ、復習を増やした実践的な学習を重ね、理解度を高めていく。	・科学的根拠に基づき、さまざまな事象を考察し、文章やグラフ等でまとめようとする姿勢が見られた。振り返り・積み重ね学習にも真剣に取り組んだが、定量的な思考は苦手とする生徒は多い傾向にある。
音楽	・新型コロナウイルス感染拡大のため、歌唱を伴う授業の際の制限や、マスク着用での歌唱練習となり、生徒の発声法の確認の不十分となり、生徒自身の歌唱への意欲が低下し、また、表現力も低下している。 ・校歌や合唱ではない歌唱曲への学習意欲の低下。 ・音楽への興味関心が偏っている。	・歌唱に関しては、生徒間の距離を保ち歌唱すること。 ・模範的な合唱の動画を鑑賞することで、より良い発声法を考えさせ、理論的により良い発声法を理解させる。 ・合唱だけでなく、歌唱や鑑賞を通じて様々な分野や歴史などにも視野を広げて音楽に触れさせる。	・歌唱については積み重ねが重要であるから、今後も歌唱の時間を多く取って、歌うことの抵抗感をなくしていく。 ・政府の方針を確認しながら、マスクをつけずに歌唱指導を行う。
美術	1,2年次の経験を基に、一見難しそうに感じられる課題にも取り組む意欲のある生徒が増えてきている。その分制作時間がかかる所を、補習をあてにしている生徒も多い。	なるべく授業時間内に制作できるように、構想の段階から、評価に結び付くアイデアの提出機会を増やす。短い期間内の目標を示しながら、大きな目標、大きな作品の完成につなげていく。	最終学年として、やや難易度が高いものへ、工夫を凝らした構想を練るなど、自己を高めようとする様子が見られ、作品にもその成果が表れた。今年度は作品を展示する機会があり、学年内では制作後の取り組みにおいて積極性が増し、校内でも互いの作品を鑑賞する機会ももてた。
保健体育	・全体的に体力レベルが低い。 ・自己や他者の課題点を解決するための思考力 判断力 表現力が低い。	・授業内で補強運動などを行い、体力の向上に努める。 ・課題を明確にして、仲間と教え合いの機会を増やすことで思考力 判断力 表現力を育成する。	・2学期以降、持久走を取り入れ、種目別に応じた補強運動を取り入れ、体力の向上に務めた。 ・課題に対して一生懸命取り組む姿は見られるが、技能としてのパフォーマンスはもう少し向上させたいところである。
技術・家庭	(技術) ・時間と自分の力量を把握したうえで作業を進めることができない生徒がいる。 ・安全面の意識(家庭科) ・自らの体験から学習内容を理解し活用したり工夫できるようにする。授業を受ける意欲はある。 ・作品製作意欲はあっても技術が伴わない生徒もいる。	(技術) ・Chromebookの活用 ・タイマーの活用 ・保護メガネ着用の徹底。(穴あけ・湯の流し込み) (家庭科) ・自らの考えたり、工夫しようとする時に適切な助言を与えるようにする。	(技術) 4月よりChromebookを活用していたこともあり、オンライン授業では様々な学習を展開することができた。タイマー・保護メガネについては大いに活用することができた。 (家庭科) 幼児の玩具製作では、計画に基づき使用目的に沿った個性と工夫ある作品を作成できた。交流会もして幼児の成長や保育の大切さが理解した。
外国語(英語)	・主体的にコミュニケーションに取り組む態度の育成が不十分である。 ・コミュニケーションに必要な言語知識の習得が必要。	・コミュニケーションに取り組ませる時間を、十分に確保し、コミュニケーション活動を評価しフィードバックする。 ・既習内容を含め、評価を行うことで言語知識の学習の機会を保障し、フィードバックする。	【成果】 評価の機会の回数を多くしたり、評価項目を増やしたりしたこともあり、身に付けた知識を応用して表現することが出来た。 【課題】 そもそも言語知識量が学年相応レベル未満である生徒が多い。何でもいから、話せばコミュニケーションになると勘
道徳	・道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題と捉え、向き合うこと。 ・他者との関わりの中で、物事を多面的・多角的に考えること。 ・あらゆる場面での道徳的な思考・判断ができるようになること。	・自分を振り返って成長を実感できるような課題を提示する。 ・自分の考えを表現しやすくなるように授業形態を工夫する。 ・総合的な学習の時間や教科と関連させた授業展開を工夫する。	・道徳地区公開授業での命の授業では、保護者から教材を提供していただくなどして、生徒が自分事として考えられていた。 ・授業形態の工夫により、お互いの考えの違いを知ることができ、視野を広げることに繋がった。
総合的な学習の時間	・主体的に考え行動する力。 ・情報をつかみ活用する力。 ・SDGsの学習を深化させる。	・修学旅行の準備等では、1人ずつ役割を与え、実行させる。 ・調べ学習や行動計画を立てる際に、chromebookを積極的に活用させる。 ・総合的な学習の時間に、実行委員会を中心にSDGs学習の3年間のまとめをする。	・chromebookを有効に使うことができ、自分達が学んだことをわかりやすく伝える技術を身に付けた。 ・3年間のまとめとしてのSDGs学習では、実行委員会形式で学びを深めることができた。